

平成29年度全国学力・学習状況調査結果を授業改善に生かすために

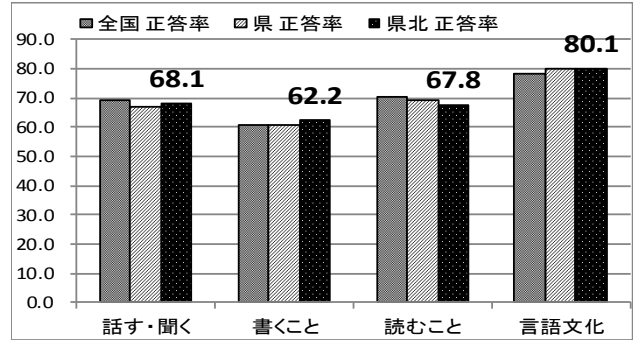
国語（小学校）

〔小学校国語A〕

県北教育事務所

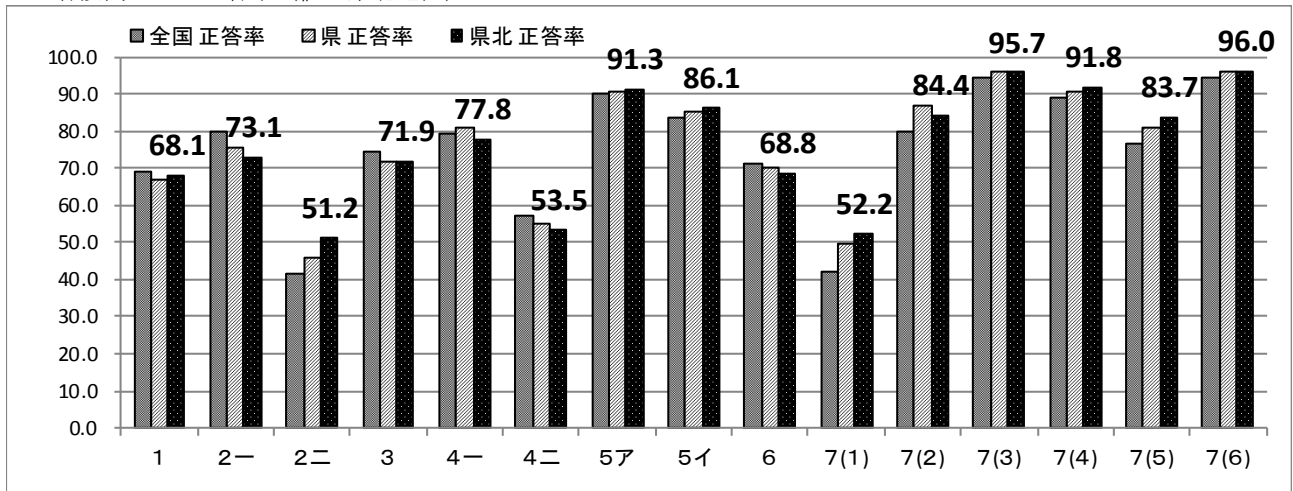
※ 各領域ごとの正答率（値は県北地区）

正答率	H29	全国比	H28	全国比
県北	76.4	+1.6	74.1	+1.2
県	76.1	+1.3	73.3	+0.4
全国	74.8		72.9	



県・全国平均を上回っており、昨年度の全国比から0.6ポイントの向上が見られた。領域別では「書くこと」「言語文化」で全国平均を1～2ポイント上回っているが、「話す・聞く」、「読むこと」では、全国比を1～2ポイント下回った。

※ 各設問ごとの正答率（値は県北地区）



【結果】（課題として挙げた問題は、全国と比較して正答率が低い問題である。）

- 漢字の「読み書きについては、よく身に付いている。7(2)～(6)（※(1)の「対象」は課題）
- ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることはできている。5ア・イ
- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、簡単に書いたり詳しく書いたりすることに課題がある。2-1「書くこと」
- 俳句の情景や表現の特徴を捉えて読むことに課題がある。4-2「読むこと」
- 古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことに課題がある。6「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書の解答類型

※（ ）は報告書ページ

設問2-1は、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかをみる問題であるが、一部分の表現にのみ着目した誤答類型3への反応率が全国より6ポイント高い。（P26）

	1	2 (正答)	3	4
県北	1.3	73.1	24.9	0.7
県	1.1	75.6	22.5	0.7
全国	1.1	79.7	18.4	0.6

設問4-2は、俳句の情景を捉えることができるかどうかをみる問題であるが、正答率が低く、解答類型4の「季語」に反応した割合も30%以上と高い。（P34）

	1 (正答)	2	3	4
県北	53.5	7.9	6.0	32.4
県	55.1	7.2	6.1	31.4
全国	57.1	7.0	6.0	29.1

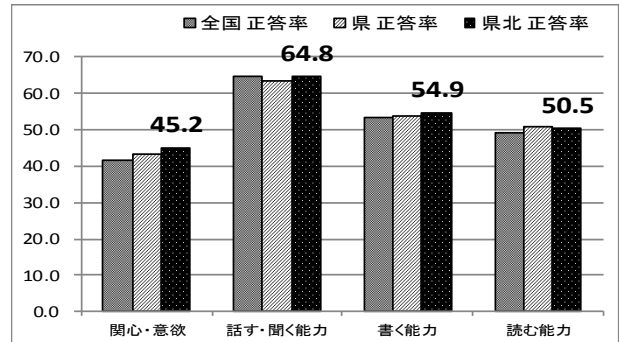
設問6は、古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことができるかどうかをみる問題であり正答率は低くないが、全国との正答率とは若干の差がある。また、解答類型4への反応率も全国より高い。（P44）

	1 (正答)	2	3	4
県北	68.8	4.0	6.5	20.2
県	69.9	4.0	5.5	20.2
全国	71.3	3.6	4.8	18.7

〔小学校国語 B〕

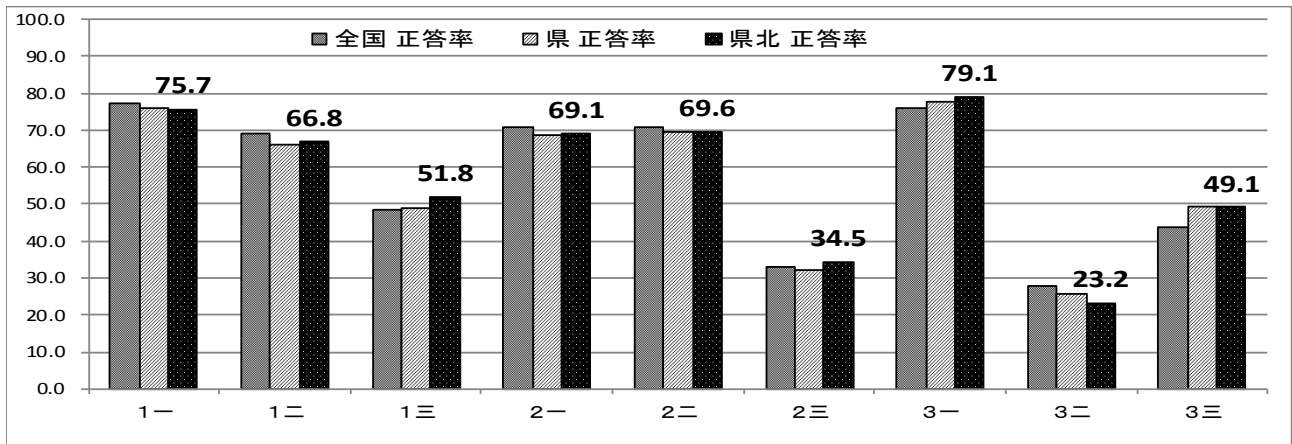
※ 各観点ごとの正答率（値は県北地区）

正答率	H29	全国比	H28	全国比
県北	57.7	+0.2	56.5	-1.3
県	57.0	-0.5	56.6	-1.2
全国	57.5		57.8	



全国平均とほぼ同じ結果であるが、前年度の全国比より1.4ポイント上昇が見られる。観点別では「書く能力」、「読む能力」において若干全国平均を上回っている。

※ 各設問ごとの正答率（値は県北地区）



【結果】（課題として挙げた問題は、全国と比較して正答率が低い問題である。）

- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることは身に付いている。[3]一
- 目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えることに課題がある。[2]一「書くこと」
- 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることに課題がある。[3]二「読むこと」

平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書の解答類型

※（ ）は報告書ページ

設問[2]一は、目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えることができるかどうかをみる問題であるが、全国の正答率と比較して2ポイントほど低い結果である。誤答の反応率が高い解答類型1には、「困る」という言葉が含まれており、それに反応したと考えられる。(P64)

[2]一	1	2	3	4 (正答)
県北	18.6	4.8	12.7	69.1
県	20.5	3.7	6.7	68.7
全国	18.8	3.3	6.2	71.0

設問[3]二は、正答率20%台と最も低い結果となった問題である。解答類型3への反応率が50%以上と最も誤答率が高かった。発言の意図を捉えることに課題がある。(P74)

[3]二	1 (正答)	2	3	9
県北	23.2	6.3	50.7	18.4
県	25.5	7.0	48.3	17.8
全国	28.2	7.3	43.9	17.5